

里見八犬傳

第八輯

卷二

~13
709
40



遠門 3
 709
 卷 40



明治三十六年
 十月九日
 購求

南總里見八犬傳第八輯卷之二

東都 曲亭主人編次

第七十回 庚申堂の使者賊婦を囚ふ

却説石龜屋次園太の細ゆる船虫と且縁頗多柱不敷悉て他所持せし短刀を
 今も抗マ左見右見て鞋を斂めて小文吾の身邊に措て却りて小可い那賊婦の假聲女
 子と知りぞと云ふ。怒り大人小薦め疎忽の事と争何せん宜し危殆なるは是を棄せし這
 短刀の焼刃の太く曇りあり近屬人を研るの欲是も亦知るべし。なほ小可い那賊婦ハ
 必是旅客の枕搜の類にあらず。水滸の母夜叉母大虫の似たる強盗を以て欲甚だ。其の同
 為小文吾と相敷さんとする。刺客のやいりん。以て當らせし。あるは欲甚だ。其の同
 小文吾うちをてのり。趣宜よりあり。俺の亦然いかり。と朽をくもる。この今也。

八犬傳八輯卷二

文英堂藏

自由な正可ふと云ふけれど、那奴が声の武蔵で、鷗尻の善四郎と喚做した。奸賊の妻
あり。船虫の似る所あり。その故の箇様と云ふ。今より五輪前の秋、那並四郎が小文吾と宿所留
め。その夜、又殺しと盤纏と奪取んと計較する。絆の趣並事件の並四郎、小文吾の敷きとせ
船虫の身、詭と此も怨気色。小文吾と遺りて途、千世赤家の御役者、畑上語
路五郎の牛と借と、搦捕せと謀り、かとも又小文吾、小抄と捕れて、その奸計の絆立地
發覺て、倒る身と細められ、石濱の城牽る。折竊の資、人のと逐電せと云ふ。その
夏、の為体、又那嵐山の尺八と小篠、落葉の力のるま、その崖略と説示と、腹、那假替女
奴の並四郎が妻、船虫也。遠く這頭、流落者。俺が旅舎に在るも、眼病を稍
ひき、これ。這奴何の間、知りて夫の怨復せん。遂に今宵、既長、秋、這一
條、除して、仇、做を、婦女の、下と、這身、取りと、記、臆る。と、小次、團太、駭、嘆、と、既、小
その、あ、ん、ん、今、い、ら、疑、へ、も、あ、ぬ、那、奴、の、件、の、船、虫、と、喚、と、賊、婦、で、い、い、て、く、の、し、も、又

身と起しと四下をみる。柱は、檜、一、條、の、露、拂、の、小、竹、枝、あり。これ、究、竟、と、遠、く、引、提、げ、船
虫、小、佐、と、立、對、ひ、疾、視、て、お、れ、賊、婦、今、大、人、の、お、れ、と、さ、つ、ん、ん、汝、の、那、並、四、と、お、れ、が、鬼、妻、船
虫、小、佐、の、あ、い、ぬ、何、の、比、も、這、頭、の、末、て、何、処、を、宿、お、も、う、と、お、れ、の、身、一、箇、の、あ、い、ぬ、と、必、支、黨、多
ら、ぬ、と、懐、お、せ、短、刀、も、賊、物、を、近、比、人、を、殺、せ、と、あ、ん、ん、出、來、歴、支、黨、を、回、り、隨、招、道
せ、よ、お、れ、の、目、の、物、を、せ、ん、と、罵、り、杖、を、抗、て、續、さ、る、の、提、徴、を、船、虫、の、吐、嗟、と、叫、ぶ、声、苦、い、な
戦、と、や、主、妻、時、も、多、愁、る、の、い、何、ぞ、悪、ん、且、の、う、と、所、の、お、れ、と、悲、請、を、已、ま、り、と、次
團、太、の、い、ぬ、を、と、く、權、且、呵、責、と、止、め、け、り。登、時、船、虫、の、頭、を、擡、吻、と、息、つ、て、喃、主、妻、を、武、藏
の、人、の、妻、の、い、ぬ、を、か、故、郷、の、則、下、野、を、赤、岩、村、の、隠、れ、る、赤、岩、一、角、武、遠、と、喚、れ、御、士、の
恥、を、な、す、と、妻、が、良、人、を、い、ぬ、の、あ、い、ぬ、良、人、武、遠、の、い、ぬ、年、故、あ、り、と、笠、山、某、甲、と、武、藏、の、弟
子、の、箇、敷、を、お、せ、れ、な、り、過、世、と、く、て、仇、と、敷、を、見、子、一、箇、の、い、ぬ、を、お、せ、れ、が、俺、身、女、流、の、あ、い、ぬ、も
那、笠、山、が、往、方、を、索、り、て、良、人、の、怨、を、復、ん、と、思、い、決、め、の、目、より、神、祈、り、佛、の、誓、言、を、縛、の、便

婢們が噂の噂知る。親んそそ。次房の。方後次園太が船虫と。提んて。関境で。
 ぞ。喃大哥と。喚子と。箕貝戸の陰より。遠く。共侶も。立出て。次園太も。ち對ひて。大司可。這。
 奴が。大胆なる。刀劍三昧。せし。も。又その。陳ま。趣と。搦鬼。ると。い。る。も。その。大略。を。す。
 現。艦。秘。る。ま。の。ま。れ。の。責。問。ま。す。勿。論。な。れ。も。這。首。を。咎。と。中。多。亦。復。酷。く。強。
 叫。び。て。市。を。四。鄰。と。駭。え。ん。は。る。の。の。例。も。あ。る。小。庚。申。堂。に。あ。る。神。慮。儘。も。あ。る。を。
 と。い。へ。次。園。太。領。り。て。宣。定。ふ。る。受。ま。え。は。一。然。ハ。那。里。に。あ。る。三。夜。燈。樓。の。梁。糸。吊。之。宵。
 毎。日。鞭。撻。さ。る。首。伏。せ。る。危。准。備。さ。す。と。い。を。せ。し。と。小。文。五。五。重。安。時。と。推。林。小。神。
 慮。儘。と。い。ふ。の。御。向。も。あ。る。ま。る。ま。る。その。里。人。の。私。刑。而。て。之。刻。薄。不。過。さ。る。後。難。わ。ら。
 争。何。其。願。ふ。領。主。訴。へ。官。府。沙。汰。さ。る。ま。る。と。い。ふ。次。園。太。少。政。を。地。方。の。風。儀。と。知。る。を。
 ね。は。信。實。の。理。り。な。れ。も。然。れ。ど。不。便。の。ゆ。え。當。所。の。前。内。官。領。長。尾。判。官。景。春。ま。封。
 内。也。主。の。近。曾。上。も。多。白。井。の。城。小。在。也。又。當。國。中。春。日。山。長。尾。家。の。城。あ。る。と。い。ふ。も。路。

遠。け。れ。訴。訟。人。們。の。往。還。日。數。と。費。之。の。主。在。は。謙。歩。不。動。も。非。理。の。裁。許。
 あり。是。の。不。便。の。一。つ。又。這。里。より。程。遠。く。ぬ。三。嶋。郡。片。貝。小。長。尾。家。の。別。館。あり。其。
 首。領。主。の。乳。母。君。殿。の。大。刀。自。と。喚。れ。ぬ。か。年。來。住。せ。ぬ。か。み。づ。政。事。多。く。亦。是。女。
 後。の。臆。影。也。目。以。肩。の。沙。汰。も。勘。さ。る。ま。る。若。談。衛。説。ま。る。是。の。不。便。の。二。又。錢。三。日。
 さ。費。ま。る。も。勞。し。も。功。有。が。領。主。の。廳。へ。あ。る。も。神。慮。儘。不。便。と。さ。る。も。此。地。
 方。の。私。刑。な。れ。も。昔。より。と。あ。る。の。あ。る。領。主。も。多。え。り。免。許。と。稟。し。と。さ。る。も。後。
 難。も。な。ら。ぬ。ま。る。任。り。ぬ。と。あ。る。の。自。説。示。し。却。社。校。們。小。船。虫。と。牽。直。さ。と。共。侶。も。
 張。燈。引。提。へ。遠。く。里。盡。死。多。る。庚。申。の。荒。廢。堂。投。て。出。し。け。り。悠。而。之。夜。交。中。の。比。次。
 園。太。一。箇。か。る。來。て。小。文。五。五。不。報。る。も。那。賊。婦。奴。の。形。の。ど。庚。申。堂。へ。牽。り。て。懸。て。燵。
 樓。の。梁。糸。吊。り。て。土。夫。二。鮎。之。門。小。竹。を。執。り。鞭。撻。し。て。供。養。番。と。さ。る。責。問。ひ。小。主。系。と。り。
 心。太。死。癖。者。な。れ。も。提。々。毎。日。叫。び。の。も。い。ま。招。道。せ。な。れ。も。翌。日。明。後。も。三。夜。の。間。那。首。小。

由は責懲一竟小衰して実と吐くべし。よと士丈二卿三也。絆係とあるゆさく途
 より宿所へな。他年の来小可が。用力の弟子でひの翌の夜も又の元とひた。這里よ
 荒廢堂を約十町許あり。人家と離れて奥まらる。蕃山の腰でひの白晝でも人の往
 還罕る。非如那里もくもあ。賊婦が梁小吊られ。とるといふも憐して。資るのひひら
 這頭の人の並て威神慮儘と知方の。神慮儘せらる。五人多と知れば。抑件の庚
 申堂。年々の闘戦。荒果一人も詰ら。神像さ。今い。要る荒廢堂へ
 ども毀も。遺老を依。ち捨置。神慮儘の私刑。よ。這御小。入徘徊。され。然れ
 件の賊婦。奴が。詭りて陳。る。二夜。及び。死。あ。千隈河。推淪。地方の。宝を
 除く。べ。ち。只。大人の。與。の。を。這御。人們の。為。れ。と。小。文。五。ら。ち。せ。て。の。元。の。を。の
 たれ。ども。那。假。警。女。と。強。盜。然。ぞ。刺。答。る。ん。と。よ。は。只。是。推。量。多。の。ま。招。道。致。さ
 ざ。の。食。餌。を。與。へ。苦。痛。を。緩。め。賺。し。て。回。も。可。あ。べ。然。る。と。二。夜。を。限。り。と。て。喘。り。殺

言不仁の似る。後悔ありとも甲斐あるらん恨らへ。俺暗殿を。他とて自由な。わが。身
 疑ひを釋し。由。就。這短刀。の。假。警。女。が。東。西。の。へ。も。焼。刀。の。曇。り。尋。堂。言。る。ん。を。
 人と欲するのの似る。と。の。れ。お。も。と。又。よ。は。御。宗。磯。九。郎。と。殺。る。那。次。盜。賊。も。あ。れ。を。り。
 照驗とるるともあ。ん。飲。見。も。亦。知。る。ん。然。れ。が。這短刀。の。和。主。權。且。預。り。措。て。那。穿。殿。金
 どもあ。か。と。の。れ。て。次。圍。太。異。議。あ。及。び。先。小。文。五。の。身。邊。を。那。短。刀。を。合。抗。て。宣。越。宣。ふ
 小可預り措く。夜。の。名。既。小。深。初。り。快。々。睡。り。あ。ひ。か。と。告。別。り。短。刀。を。引。提。て。奥。へ
 退。り。け。り。小。程。小。文。五。の。睡。れ。ぬ。隨。お。通。官。身。の。病。着。と。草。枕。旅。宿。の。憂。甚。と。遣。り。難。て。
 獨。は。り。思。惟。小。俺。の。風。眼。も。早。晚。と。三。十。餘。日。あ。り。ま。た。然。し。も。主。人。の。親。切。の。醫。療。賣
 茶。甲。と。ね。く。薦。め。小。任。と。取。替。引。易。久。し。う。用。ひ。ら。れ。れ。も。只。疼。痛。の。退。て。物。と。る。と。こ。ん
 り。の。任。だ。り。便。る。と。る。草。根。木。皮。の。效。る。と。又。神。佛。の。具。助。ふ。と。と。世。の。難。病。の。瘥。は

の亦れると云ふべし然れどあれ往歳俺身石濱の城内小在り時馬加日記が邪計を
毒類せられけりと思ひ折の言りて年来所藏の靈玉を口合と玉液の奇特ありて
腹痛瘵の不思議な恙あり亦神佛の眞助ありと憶さるる疎多る今も亦靈玉の
奇特の祈る醫む晴の暈も挾霧もうち拂れて天且瞻る心驗ありと尋思とて遠く
枕邊遣の身と起して夜も日も肌膚と放き置ける身護裏の切解被る玉と取出つ
祈念と幾番と眼包と拵れ撫るまわく銷然と眼内の邪熱退冷て心地清爽あり
けりとて且試み枕邊遠く措たる行燈と徐と引きて戸蓋と掲てうち對ふ目厭むわ
るる一々憶も空余と獨笑して是則靈玉の妙心奇特小疑ひる任まて火驗灼然と神
宝と身付する二十餘日禱も其他所小某と求むる駝ひの予とち忘る人の抱る穢
児とを羨む小似りけり又も疎る俺が怠慢と許さる後と念とて亦復眼包と拵る
物とると初めわら枕小被る微塵も夜視も鮮明ありけり之歡しむと勇て翌の

風ゆて那荒廢堂へ由り假替女とくんとん折小と船虫秋船虫の秋檢定て疑ひ
其首小氷解せハ推量とて口管小入任と身ある人我を行多るん嗚呼小を胸小
の思心のいそれとも夏の夜と今宵の尚生憎小明や五三の鐘响く比靈時睡眼小
就けり不題話表大川莊小義任の曩小大山道節共侶申斐州小旅宿とて石
木の御の片邊多指月院小宿投り一夜料も、大法師と登崎士郎照文小面會
あて曩小行徳ありて大江親兵衛のうへもゆら哀歡ももる權且逗留
たりと又道節と商量とて迭代小東北諸州をうち巡ると高又大塚大飼大田并小生
死存との知まると云え親兵衛のうへも素宗究んそ、大照文の任とて思ふと説示
あり莊小の去歳の如月獨指月院と立寄武藏小到り下総と赴死て行徳の里小大田
父子のりと同じ小小文吾の故郷と遠らるるの故小文五兵衛の住も孰る家と舊市川
亦妙真と共侶小安房の親族許赴りその次の年の春也あけ世と去り死とて

去かち。ゆふの似に駭敷くとく之と疑惑の胸安くば然るをも小文吾の史に軍節をねく
 此の事やと云ふと。この事やと云ふと。この事やと云ふと。この事やと云ふと。この事やと云ふと。
 又里人の間へを。正可不知らるるなり。なを。なを。なを。なを。なを。なを。なを。なを。
 更不常陸へ赴きて秋の比より玉銚の陸奥へ旅宿と云ふ。今茲の春まで那地あり五十四
 郡を徧歴り。幸都の濱まで漏れり。足余信と涉獵す。おもしろく。おもしろく。おもしろく。
 逆旅より大八の大江親兵衛へ神諭と云ふ。の史。往方知れと云ふ。往方知れと云ふ。往方知れと云ふ。
 谷の臨み峻岨を立て身の危なきもの。と云ふ。故に又日留と云ふ。越後州魚沼郡山
 里を過る折其邊の蕃山峻岨も漏れり。杖を曳たり。その日も山路を暮れて小千
 谷の御へ十町許も。あぬら。と云ふ。程小夜いと初更の中刻まり。ちも。續て。五月雨天
 疎く。雲存目して十八日の月鮮明。山峽より降りる。前路も。小山あり。其首も。故に。佛

堂ええけの登時。社介。と云ふ。左も右も宿投後れ。今宵の露宿不曉とも。ゆふも倍と
 つれ。あ。
 却堂内と云ふ。柱傾に破れ。檐小庚申堂と寫り。匾額も。あり。あり。あり。あり。あり。あり。あり。あり。
 網小包れて素妙の臨に飛鳥似。四壁の風雨洗れて不破の因屋の廂る。ねと。洩る。月影の
 隈も。それ。猶彼此と。見て。知り。ぬ。高座破落して。神像在る。板席茵と。生と。狐兔跡。と。
 印。と。云ふ。這堂之間四方も。大厦と。云ふ。ねと。矮樓あり。土木初。工と。盡と。磨建。と。云ふ。と。い。
 ち。頽破。及。び。と。雲中。も。風。中。も。覆。れ。と。有。り。と。嘉。吉。吉。松。仁。の。年。間。より。と。都。鄙。不。開。戦。絶。
 され。神。社。佛。閣。も。大。く。兵。火。不。焼。れ。乱。妨。不。毀。れ。と。蹟。と。云ふ。ち。り。と。も。ヨ。タ。れ。は。是。も。亦。の。類。を。
 今。より。五。稔。前。の。秋。文。明。十。年。七。月。二。日。俺。身。武。藏。の。大。塚。在。り。と。東。人。の。仇。と。殺。さ。る。と。軍。木。卒。
 川。籬。上。們。証。ら。れ。て。死。刑。の。場。不。臨。と。折。也。と。云ふ。り。と。大。塚。們。那。三。大。士。未。極。地。名。の。庚。
 申。塚。を。い。は。れ。る。武。藏。の。豊。嶋。郡。這。里。の。越。後。の。魚。沼。郡。那。三。大。士。未。極。地。名。の。庚。



八代傳八景卷三

文樂堂藏



八代傳八景卷二

文樂堂藏

名の庚申堂未幾へとも離合の時あり。有為轉世の世の去住の苦。何れも是より信濃赴
 如千の州を巡りて吉左右ある大山俵々在り。州の名の甲斐斐斐然とせられん。おせき
 と腹向心をもつ。慰難て悵然とて照る月を。凄凄時眺る折も。あれ這荒廢堂の構
 上人の呻吟く声せ。社介駭然且訝して吐裏不ひや。荒堂舎を夜を。人々處
 るを怪しけれ。若是家る山賊。若くは妖怪山鬼の。俺が剛臆を銚え。猛可声をか
 たるる。要てをあれと尋思。徐々裡面を。朽て歩。口間遠なる。階子不携
 きて樓上を。降りて。月光の下屋より。下りて。残る隈を。明りけ。怪む。一個の女
 人の年齢の四十許。面貌の醜く。最も敗糸く細ら。ひいて。梁を吊られて。あはけ。おせきも似ぬ
 る。莊介驕る。氣色も。ち對ひて。熟視て。おれ。何物も。人々の変化を。那元
 人の小説。お見れ。と。亦紅孩兒の類。老その。亦窮阮の姿。示して。慢る。俺も。戯る。似而

非麻鬼行。おと。鳥許多。まを。冷矢。お。女人。お。とうち。泣く。然る。宜い。神を。賤
 立。妖怪。變化。お。這里。より。程遠く。ぬ。小千谷の。御多。客店。小月。屠屬。仕下りの。お。はら
 暑。小良人。お。身。ま。り。つ。食。賤。兄。お。寓居。く。助。芳。お。意。を。お。人。お。仕。口。の。う。身。の
 皮。お。小。拵。んと。尋。思。と。兄。お。告。て。那。客。店。お。今。茲。三。月。の。初。旬。より。お。主。係。人。の
 早。晚。お。薄。情。や。賤。妾。お。春。想。と。打。々。夜。跋。く。口。説。れ。此。も。侍。せ。去。辱。め。て。逐。返。し。る。恐
 る。箱。硯。お。容。置。る。粒。銀。一。顆。失。う。と。日。取。味。ま。く。穿。鑿。金。を。果。お。賤。妾。小。濡
 衣。を。被。せ。件。の。粒。銀。を。竊。り。と。理。も。非。も。分。だ。搥。つ。毆。ら。れ。お。解。く。う。と。お。解。せ
 ぬ。殘。忍。邪。慳。主。の。威。光。を。懼。と。身。勤。ま。ぬ。縛。縛。繩。僮。僕。非。車。お。も。な。傳。し。と。け。お。黄。昏。の
 比。よ。の。お。這。荒。廢。堂。お。牽。の。と。あ。つ。人。お。入。れ。ぬ。樓。上。の。梁。を。吊。り。て。お。お。の。お。の
 隨。お。鞭。撻。て。翌。の。夜。も。又。明。後。の。夜。も。竹。台。を。當。て。お。死。を。お。お。蓋。堂。買。卷。お。と。千。隈。の
 河。推。論。め。んと。お。お。の。半。時。を。お。前。を。お。お。賤。妾。お。寛。屈。の。罪。お。屠。所。の。羊。と

ありきたり方幾九死一一生と云ふて之を以て幸ひと旅や刀袷と云ふをなま方
 さぬ小遇まづりの奈落加中。弥陀の御光を拜む似たり。倘や不詭りあふべし
 たは弥彦の神の御四訓を稟まつらん願ふを疑ひも這細も鮮御と兄の宿所へ
 送らざるその再生の御恩まはり噫堪が苦やと身と戦と血走眼不禁難る紅淚樹
 間の雨と降はく凋る花と憂かりしを誠し辱ふ口説けり。莊介これをうちめて羊来犬田
 小文吾小仇も賊婦船虫を神もぬ身の知るよりまけれぬも嗟嘆してやぐさ
 人の不仁俗の薄命憐む。家兄の宿所ハ何処なる。その姓名ハ何といふ。と向ふ船虫涙を
 禁めて兄の宿所の這地方より半里をりもゆるゆり片山里を獨戸也名を酒顛二と喚れ
 ゆる隣に疎に孤屋也といふ食くはれも使氣あれ乾兒まゝ賤女を厄を釋助け宿
 所へ送るゆゑにまをぬ秋はゆるし只れ慈悲を願ふといひ莊介領てを亦自然の道
 理之先鮮御とゆきまをんと云て軀と腰刀の附る小刀子と抜合きて左舟小舟を船虫を

抱抗々河深子截る素を研棄る。技師の両手を膝け。その重索を解れる船虫は
 捺り足を捺り乱れる髪を搔き推執ねて跪き莊介を伏拜り又伏おみて云うけ
 るは慈善何の世も忘るる足さ皮肉疼きて難義ありゆれも駝れまらん
 憚りあり徐におもひ退るんを送り給ひ給ふ。舟のうの御恩おとと瀧心む莊介推
 辞難ていふ趣餘もも。宿投後れ折れ路の便宜左も右も宿所へ送届ける
 せん徐に階子と踏へ降よ。と云ふ船虫又伏拜りて大かゝる御洪恩おととい兄も感心して
 今宵の宿をえへん允させぬと云ふと膝小掛て身と起まを莊介の何勸りて
 技けの便に樓上より降りて外面小舟を時壞れ壁の鏝巻竹の太さるを推折し船
 虫小取す。船虫を受載て杖と突て辿るも莊介と共侶の夜の山路を執る如くゆく
 正約半里許童子は隔子酒顛二。隱宅へ之を來まけり。這里の山院の荒迹を
 処を礎あり只松柏の老るが彼此の級系立く。見長限り外小家る。然も酒顛二

隠家の原山院の庫裡よりけられ荒る随不廣方之坐席の二房の二房より出べし。這
 夜件の酒顛二も支黨の悪棍を十五六名相聚へ。酒うち喫くありける。船虫も然
 とも知らねど俺詭り一趣をえか。良人の其報を這旅客と對面の折忘答不都合
 下と多ひければ莊介を要時門頭より置て遠く門の戸を推開又引闔て囚と裡
 面を找入り酒顛二も及支黨の灯光を見り声やけ。今宵の奈を遅く。今も
 今とて丙丁と噂するまは手入らうといふ。船虫も抗て推禁め又外面指し示し酒顛
 二の身邊に跪居て憊々と今宵の首尾を其く。酒顛二含せ大系。幾番とく領
 けて却同惡の甲し。其れ續して箇様々々。今宵の奈を遅く。今も
 きて奥へ躲るの言残り残るの才。一兩名啖散せ。不血盤を威辟下片寄。其頭を
 儲て。介程お莊介の憶い。船虫を送り来て。目く門頭。小鶴立。折く月。雲入り。く
 這四下は光景。巨細ゆま。なれも。輝の趣意外。出。訝。か。は。め。る。非。如。王。人。

獵戸とも憊る地方に住做せ。要多。ん。や。艦。心。裡。面。の。容。子。を。て。後。不。這。疑。の。釋
 よ。あ。ん。と。思。へ。阿。容。る。氣。色。も。ね。主。人。の。案。内。と。俟。す。と。裡。面。より。一。個。の。支。黨。が。遠
 ち。の。で。さ。ま。ま。け。む。り。誘。え。船。と。案。内。と。ま。れ。莊。介。引。隨。草。鞋。の。勿。解。捨。て
 あ。く。立。ち。や。莊。介。の。う。ち。對。ひ。誘。え。船。と。案。内。と。ま。れ。莊。介。引。隨。草。鞋。の。勿。解。捨。て
 儲。の。席。不。着。程。酒。顛。二。も。亦。身。を。起。し。找。對。ひ。叮。寧。小。且。の。長。途。と。勞。ひ。て。小。可
 則。當。家。の。主。人。酒。顛。二。と。喚。り。め。女。弟。の。必。死。と。極。む。御。洪。恩。の。趣。目。今。他。が。報
 た。れ。具。の。美。知。仕。り。ぬ。親。身。の。何。州。の。方。さ。る。あ。獨。行。と。表。め。願。ふ。名。告。せ。め。か
 倘。武。家。方。の。主。用。也。口。官。路。と。急。せ。あ。ん。脚。力。あ。る。と。問。ハ。莊。介。頭。を。掉。て。否。其
 東。園。の。浪。人。姓。名。大。川。莊。介。と。喚。做。ま。の。で。い。ぬ。比。より。故。あり。友。を。索。ひ。彼。此。と。指。歷
 一。稔。不。及。い。ま。今。宵。憶。い。も。山。路。の。荒。廢。堂。未。憩。一。折。那。樓。上。今。妹。の。解。縛。せ
 ら。れ。為。体。も。る。刃。心。び。む。の。故。と。ゆ。け。免。屈。の。呵。責。不。似。る。宜。不。便。の。あ。る。れ。已。こ。を
 ぬ。解。卸。と。請。隨。不。夜。と。共。送。届。け。俺。們。安。心。の。受。ま。り。今。宵。羊。夕。止。宿

奉公の原
官麻原
後世傳
市中住
坂梅
奉公の原
官麻原
後世傳
市中住
坂梅

致すも不測の縁曉負別と告ぐの事。其も管さる且今妹を勅りあとの酒顛さし
女弟の納戸から臥さし既將息の術直あり節骨の疼む処へ膏茶を打べとて乾
兒們そのうと吩咐ていへぬあつる楓ゆゑ他近曾嬭婦よりし見子いさもひつ
去歳より這里へ召されたるも小可も亦妻子をけれ奉公せんとのふ儘とて小千谷の御を
客店へ炊爨せよと遣せよ又有先東人の殘忍情慾の送恨濡衣を被せて殺さん
せられぬ怨む鳴呼憎むべ。その美異日御長小告てせんかんと。いふ儘とて
漫之憤と洩えその長の語で管待の後れり。快夕饑まわせん準備せざと急
谷の悪棍輩のあつるで先とせと莊小の遠く推林あてその美決て無用之其の割
籠の飯の残と舊の俵とあつる。その黄昏ふたすべ。俺們の欲か。一房を
借りと睡ん。と推辭と酒顛三強難て小夜深ればあつる。東西とていふれば。然
ていふも無造作へ尚も。つねの館もあれ。心さう小飲ひの不血を草とめまらん甲よし

よ不血盤碗碟と洗淨めて装易と。そのを莊小又林あて。否其の生来沙量是路の疲
勞のるあつる。只這夜も睡。の。喚る酒と浮られて徒天を明えより。遥小優
管待をん。の。と。酒顛三頭と撥て然も。固く辞ひ。言
あつる。仕せぬ。倒て。無礼か。い。急。せ。あ。旅。る。の。權。且。這。里。の。留。て。古。迹。を。遊。覽。見。ま。か。さ。の
折。中。小。可。御。導。と。致。さ。く。の。管。待。を。任。し。夜。を。名。既。深。れ。ば。就。寝。り。あ。つ。る。よ。下。這。里。の
名。さ。る。雪。国。に。は。蚊。さ。へ。蠅。さ。へ。稀。れ。る。也。雨。の。比。の。屋。棟。裡。り。夜。の。只。煙。の。落。ま。あ。つ。る。と
蚊帳を用と。杜校輩と。南向の八席房の臥蓆を。儲て。案内を。せ。と。吩咐れ。兩個は。又。當。り
あつて。あ。の。処。に。蚊。帳。を。無。て。枕。と。臥。蓆。を。蒲。團。と。さ。り。あ。つ。る。莊。小。は。誘。を。案内。を。考。程。ま
莊小の酒顛三頭。歡い。演。刀。を。引。提。げ。馳。て。臥。房。へ。入。り。ま。け。り。

第七十七回
衆賊を盡して酒顛旅舎を宿す
内命を傳へく由元二客を招く

却説社介義任の獨枕不就ひとりねも又身みと起おこしと要時かなも睡ねらば又また頭かぶを低ひく肚はら裏うらもあまあま。這裏こゝの主人あにの面魂つらみ一癖ひとくせあべくええるる乾見こかんと唱なるる二面にめんも又また獵戸りやうの模も様さまもわわ短席たんせき上うへままありあり不盤ふばん碗わん碟てつの二箇にかんとと具足ぐそくせせ碟てつ子こ入い唐山たうざん舶来はくらいの宣德せんとく製せいの如ごとく折敷せしき剥むるる會津えつしん盆ぼん東西とうせい皆みな輕重けいちゆう巧拙かうてつのありたるも疑うたがはな家いへの寺院ていゐんの庫く裡ら似に俗まじの住まわわ柱斜ちゆうしゃ壁へき壊これてた檐えんも夜半よはんの月つき漏もれる酒肉しゆにく不ふ奢しゃれるる為ため体てい那人にん柄がら相あ応おうくく今いま亦また臥房ふいぼう入いりてるる蚊帳もんぢやうハ則すなはち萌葱もうちゆうの紗さ之の裾すそ縁えん紅こう絹きぬと用もちひる亦また是こゝ微賤ゐづの東西とうせい似に蒲團ぼたん四布しふの絹きぬも亦また臥ふ坐ざ極ごく也や麈物じゆぶつ之の枕まくらハ古材こざいの斫株せつぐらなられりよよとと推量かするる那酒なしゆ顛てん二山にざん賊ぞく也や而個にこの乾見こかんハ支黨しとうをん向むか主人しゆじんが俺おれと相あけけ武家ぶけの主用しゆようの路ぢと急いそ脚力けつりきを哉やと向むかひひ時ときいいまま心こゝろのつららしし今いま又また此こゝの俺おれが懐なつ小要金せうやうきんあるる後ごと竊引せういんるる此こゝも亦また疑うたがはな仕しれる女弟にようていと唱なるる亦また是こゝ是こゝ賊婦ぞくふぞ人の為ため生拘なまかれる那荒廢堂なわうはいだうの樓ろう上うへ不敷ふし敷しれる俺おれが思おもひ足あららせせしし。

他たが巧言かうげんと直事ぢくじと听きるる慈善じぜんの仇あとと死し機萌きもの越こ頭かぶれる密ひそに所當しよたうのら由よし也や。今いま宵よの旅舎りよ只ただ用心しんしん小優せうとあらうと尋思じんしやや四下しよげとと縁えん類るいの戸かどの足あしもあらるる。半分はんぶんの圖志ずしありり子こ二刻にこく比ひの月つき光障くわうぢやう子こ照てるる庭面ていめん高たかく歌女かによの声こゑはは絆絆あるる折せ進しん退たい好好劣劣の便べん牙あとと又また後方ごほうとと短たん鎗しやう竹槍しやくしやう桿かん棒ぼうををのの言こと美塵みぢん掛かくくわわの又またその邊そのへ不ふ筆ふで筆ふで列れつ衣織いしの草鞋くさぢの緒いとと融とせせるるいいままの折せも奥おく人ひと許ゆるすす。譚たん小声せうせいととれれれれ社介せけ耳みみと側わきに俺おれも不ふ佳よてあらるる。他た們たも亦また由よしゆゆせせてて隙ひま窺のぞくく。睡すいやや如ごとくあらるる臥ふくくをを俛ひ小せう枕まくら不ふ就しゆままりり。介け程ほどは酒しゆ顛てん二席にせきと易やす奥おく到たうてて嚮かうくく。躰たれれるる支黨しとうと圓居ゐんきとと船虫せんぢゆう酒しゆと飲のむむ。那な荒廢堂わうはいだうの細こめめらられるる縁えん故こを尋たずねねるる。船虫せんぢゆう声こゑと潜ひそかかとと身みを報うるる面伏めんぷくもも奴家なげが乃な者もの日ひ毎まい々々小絆せう絆假かり托たく外ぐわい半はんのの雙ふた言ごんと敷しきとと思おもひひるる故ゆゑの箇この様さま々々と裏うら小近せうぢん御ご二村にむら多た。閉し牛うしとと現あらわわ折せ大田おほの小文せうぶん吾われとと隙ひま窺のぞくく。絆絆の趣おもむきと初はつとと小文せうぶん吾われの比ひもも小千せうせん谷たに多た客店かくてんの石龜いしが屋や次つぎ圖ず太た許ゆる留りゆう留りゆう。

去々風眼と患て無筆電（これか）より其後撈す（そのちりさるま）。あれより船虫の假替女（まがひ）の
 按摩（あなま）と執りて小千谷と徘徊（わいはい）せし程小文吾（こぶんご）も召入れて近つてとらふ（おち）
 る長示（ながし）と奴家（やつが）武藏（むさし）不在（あ）の時故夫（むかし）鷗尻（うしり）の並西主（なみせぬし）那小文吾（なこぶんご）殺され（ころ）る折
 奴家（やつが）も捕（とら）れ石濱（いしはま）の城（しろ）牽（ひ）る夜女（よめ）不測（ふそく）人の資（し）より（ひと）那地（なち）脱去（だつそ）るた
 ら此五稔（このごね）已前（いぜん）の（ま）今（いま）ふの（ま）日（ひ）閉（し）牛（うし）の折（を）那奴（なやつ）と（と）願（ねが）規（ぎ）より（より）昔（むかし）怨（うら）み（ま）堪（た）ま
 厚（あ）く（と）新（あら）情（なさけ）義（ぎ）薄（うす）とせられ（う）初（は）より（は）死（し）却（か）後（ご）も（も）あ（あ）け（け）暝（めい）昏（こん）
 より小文吾（こぶんご）近（ち）つ（つ）て他（た）が肩（かた）癖（くせ）と敵（た）ま（ま）工（く）又（また）か（か）られ（れ）る（る）那奴（なやつ）の皆（みな）目（め）又（また）え（え）られ（れ）奴家（やつが）とと
 此（こ）事（こと）知（し）る（る）粵（えつ）の（の）便（べん）と（と）乃（な）の（の）懐（な）刀（は）と（と）技（ぎ）出（で）と（と）頭（あたま）と（と）搔（か）ん（ん）と（と）乃（な）の（の）事（こと）多（おほ）く（く）那奴（なやつ）も利（き）を（を）
 捉（とら）れ（れ）て投（な）げ（げ）られ（れ）て支（し）成（じやう）良（ら）の（の）折（を）主（ぬし）入（い）次（じ）固（こ）太（た）が相（あ）計（けい）と神（かみ）慮（りょ）任（にん）不（ふ）做（ぞ）さん（さん）と（と）西（さい）個（こ）の乾（かん）
 見（み）る（る）傳（でん）せ（せ）奴家（やつが）と（と）馳（ち）て人（ひと）煙（えん）盡（じん）処（しよ）る（る）庚（かう）申（しん）堂（だう）章（しやう）の（の）去（き）て梁（りやう）小（せう）吊（だう）と（と）又（また）入（い）と（と）思（おも）ひ（ひ）の（の）隨（ずい）小

鞭責（むちづか）て羽（は）の夜（よ）も入（い）明（あ）後（ご）の夜（よ）も鞭責（むちづか）る（る）身（み）死（し）る（る）千（ち）隈（ま）河（が）推（お）論（ろん）め（め）罵（のの）謗（ぼう）と（と）出（で）て
 自然（しぜん）の（の）勿（な）論（ろん）那（な）小（せう）文（ぶん）吾（ご）奴（に）も（も）身（み）不（ふ）記（き）憶（い）る（る）な（な）わ（わ）ぬ（ぬ）奴家（やつが）と（と）船（ふね）虫（むし）と（と）疑（うた）ひ（ひ）る（る）目（め）の
 又（また）それ（れ）を（を）便（べん）の（の）事（こと）も（も）那（な）儘（まま）ふ（ふ）と（と）夜（よ）を（を）呵（か）責（ざい）不（ふ）遇（ぐ）て死（し）ぬ（ぬ）と（と）折（を）ゆ（ゆ）と（と）那（な）旅（りよ）客（かく）
 其（その）首（くび）小（せう）懸（けん）ひ（ひ）て（と）不（ふ）知（ち）る（る）初（は）の（の）妖（あ）怪（かい）ある（る）と（と）輒（た）く（く）引（ひ）き（き）と（と）奴家（やつが）が妙（た）小（せう）の（の）購（く）め（め）送（お）う（う）た（た）れ（れ）て
 かの（の）事（こと）も（も）没（ぼつ）怪（かい）の（の）事（こと）も（も）那（な）次（じ）固（こ）太（た）の（の）先（せん）使（し）御（ご）の（の）杆（かん）城（じやう）と（と）做（ぞ）ま（ま）の（の）時（とき）も（も）蠟（ろう）の（の）塔（たつ）
 より塘（たう）崩（ぼん）れ（れ）て這（こ）隠（いん）宅（たく）と（と）觀（く）着（ちゃく）られ（れ）る（る）後（ご）の（の）出（で）る（る）事（こと）何（なに）也（や）と（と）用（もち）心（こころ）ま（ま）か（か）と（と）酒（しゆ）顛（てん）二
 ろち（ろ）ち（ち）眼（がん）と（と）睜（しやう）で（で）卷（ま）と（と）接（せつ）り（り）と（と）安（やす）ら（ら）ぬ（ぬ）椿（つばき）事（こと）と（と）石（いし）龜（かめ）屋（や）奴（に）が（が）る（る）の（の）も（も）俺（おれ）知（し）る（る）も（も）あ（あ）ら（ら）ぬ（ぬ）
 ども御（ご）之（し）口（くち）と（と）利（り）が（が）と（と）い（い）ふ（ふ）も（も）先（せん）小（せう）文（ぶん）吾（ご）奴（に）が（が）人（ひと）征（せい）後（ご）と（と）征（せい）せ（せ）る（る）も（も）亦（また）是（こ）自（ら）
 然（しか）の（の）勢（せい）は（は）媼（おん）内（ない）の（の）所（しよ）要（やう）あり（り）と（と）塚（つか）の（の）山（さん）遣（けん）より（より）遠（とほ）く（く）來（き）られ（れ）る（る）も（も）他（た）の（の）火（ひ）家（か）は（は）這（こ）里（り）小
 在（あ）り（り）今（いま）宵（よ）那（な）里（り）推（お）菟（う）て（て）小（せう）文（ぶん）吾（ご）奴（に）が（が）困（こ）太（た）の（の）圍（い）中（ちゆう）の（の）奴（に）們（ら）塵（ちん）不（ふ）推（お）家（か）の（の）與（よ）不（ふ）然（しか）以（い）て
 復（た）え（え）大（だい）家（か）夜（よ）入（い）の（の）准（じゆん）備（び）と（と）敦（とん）圍（い）悍（はん）と（と）罵（のの）し（し）と（と）船（ふね）虫（むし）急（い）不（ふ）推（お）禁（きん）と（と）愉（ゆ）快（かい）と（と）自

るれども、ここは一箇の脱落も、今宵宿草大川を穿て、逆旅武人夜入の事を知
 られ、後難免れかたは、一箇の大家齊一を、邪魔する。那旅客の臥草は、邊
 器械草鞋皆これ、是の不便あらず。酒顛二冷笑、毒を吐く。破る人厭
 つ。投て、然る邪魔する。那逆旅武人、身は皮も、友を索て一稔ある。旅
 宿、身もとひを、必盤纏も、軍神の血祭。殺して、後の患を、除る。只一事、宿
 全、宿鳥へ、餌の易。熟睡を、結果は、舟車然る。短る軍
 配、快甲も、ねて、ね。六も、立。合目と注し、那旅客の、面。備武者、修行の、れ。
 素よ、本事の、さ。思量、一人。二人で、あ。酒顛二、冷笑。役
 あり、立。弱虫、健。啖、豪傑。一個の、敵。小、四五。名、俱。不、達。音、出。て、返。巡、る
 工、い。の、俺。を、せ。と、と。か、と。巨、刀。引、提。て、立。勢、以。小、励。を、恥。く、也。以、て。大、家。齊、一。竊
 歩、一。房、と。隔、一。莊、介。臥、草。に、潜。より、た。れ、懶。無、才。隨、不。と、何。地、竟。見、影。も、大。家

狂可、駭。噪、て。原、来。那、奴。の、耳。聰、く。密、談。を、多。知、て。逃、亡。る。輒、れ。快、庭。の、樹。は、蔭
 簀、子。の、下。ま、隈。る。素、ん。皆、半。と、言。動、く。酒、顛。二、推。林、を。那、奴。の、他。郷、の。旅、客。を、六
 撃、漏。せ、と。惜、ひ。不、足。る。石、龜。屋、を。這、方。は、と。告、れ。其、決。危、れ。起
 一、夜。の、丑。と、か。那、奴。を、索。て、徒。不、曉。を、悔。も、及。ん。快、々。夜、の。准、備。を、と。辭、激
 者、惴。立、れ。大、家。齊、一。の、議。及、び。身、を。固、め。器、械。引、提。て、出。せ。船、中。の
 奥、の。房、より。吸、林。を、出。て、酒。顛、二。ち、對。し。身、を。下、矢。這、人。々、名。残、り
 出、て。後、那。大、川。が、立。戻、り。斯、れ。方、腹。愈、る。奴、家。を、殺。せ、あ。り。身、單。也、防。だ、か
 水、切。て、留。守、る。一、両。名、送。り、成。り、危。く、外。面、の。か、り。來、る。の、事。是、則
 別、人。を、送。り、武。藏、る。四、谷。の、原。也、主。の、淡。雪、奈。四、郎。の、疾。首、盤。纏、の。金
 子、と。送、り。奪、り。影、を。輒、一。房、亦。那、惡。僕、媪。内、媪。内、去。歲、の。冬、越。後、の
 塚、の。山、に。逃、れ。來、て。博、徒。の、叟。計、を。一、房。の、竊。金、の。淡、雪。の、消。る、を。使、果。一、却

其夫の言た随ふ遂に酒顛二が下ふる。春の比より這里も。あの日の塚の山も所用
 して今朝未明よりする原の原のあわれの倒夜行の便利とて深夜かかるとも。
 酒顛三初の單身より小船虫と妻おせしより又當りて取れず。大勢おちや
 とて同話休題酒顛二の折もよ。方纔媪内かたより遠く咽泣つてや。媪内
 辨急なれ。觀稟意中と盡す。違ふとて俺は今より火家と俱ふ小千谷夜合赴く。亦
 俺ををぬと現れ仇のあらはれ飲料より和郎も素より才覚あり。心も悍たのれ。今宵の
 留守と未なるへ事情を知り。後小船虫をゆゆと。種子嶋の小鳥銃を懐き。と
 牛七這炮銃の北国。今宵稀る東西を俺年来秘藏し。利を治ると。勢よく
 今宵これを送り置て。權且和郎も預て仇入来ぬと。火蓋を披て。暫と辭
 甘く説示して。その鳥銃と遞与す。媪内も。あつた。随ふ。心も。言
 趣る。白の。言て。あつた。幾人。も。國へ。足。の。楯。を。せ。ら。る。安。か。不。れ。よ。と。酒顛二領

船虫の懐き。と。留守の用心。の。美。を。示。し。て。ゆ。か。進。め。同。惡。と。先。小。立。し。て。出。て。向。く。船
 虫の媪内と共に祝と目送りけり。却説大川村公。是より先小臥房を。奥より酒顛二
 か密談と。聞く。と。約。半。响。許。間。違。隔。れ。も。護。身。囊。を。收。め。那。靈。玉。の。奇。特。小。り。け。ん。
 船虫の懐き。と。その懐小御音く。如く。辟言。五十瀬。多。御音石の人語を。得。ま。異。き。と。
 言詳し。ゆ。え。く。或。の。驚。に。或。の。歡。に。獨。竊。も。必。ず。俺。が。推。量。不。違。ふ。と。酒顛二。是
 賊の頭。梁。又。俺。が。今。宵。送。届。け。船。虫。と。小。妖。奴。奴。の。女。房。で。あ。り。け。ん。勢。れ。ぬ。銃
 中。ゆ。も。然。る。中。も。小。文。五。の。當。日。故。御。還。ら。し。と。這。地。旅。宿。す。と。必。そ。の。故。り。五
 稔。以。來。索。ひ。て。の。遇。ぎ。る。三。大。士。の。隨。一。人。の。傍。頃。這。里。より。七。程。遠。く。小。千。谷。の。御
 る。石。龜。屋。次。團。太。と。小。客。店。久。く。逗。留。あ。る。及。風。眼。小。り。と。る。と。あ。の。克。の。と。の。と。
 ま。も。賊。婦。の。口。より。渡。り。て。今。宵。初。て。知。る。と。と。の。奇。也。劫。る。と。る。什。麼。の。小。千。谷。衆
 賊。們。今。よ。う。那。里。を。襲。撃。し。眼。疾。不。便。の。大。田。の。窮。厄。十。小。七。九。分。九。警。屋。免。す。と。か。こ

かたけ。然。と。俺。身。い。ま。目。今。那。首。潜。寄。て。酒。頭。二。と。船。虫。と。揮。舞。を。小。做。を。る。の。身。合。の。小。嘯。囉。威。立。地。不。逃。亡。犬。男。厄。の。釋。べ。れ。も。不。知。安。内。の。賊。果。の。王。客。に。勢。以。既。異。之。前。後。許。多。の。敵。受。て。利。を。得。ん。と。亦。か。ら。る。その。危。は。臨。ん。と。所。詮。竊。の。退。治。他。們。出。て。折。分。れ。て。共。小。千。谷。小。到。ら。回。去。と。石。龜。の。宿。所。を。知。り。いと。易。ろ。恣。て。那。里。の。門。頭。を。名。告。て。酒。頭。二。を。敷。捕。ら。主人。次。園。太。四。隣。の。市。人。志。ある。杜。依。の。走。出。相。援。け。衆。賊。と。俱。敷。り。せ。ん。恣。做。を。と。り。小。文。吾。の。大。厄。を。釋。く。の。れ。ら。七。賊。の。根。と。筋。葉。を。枯。く。て。地方。の。害。を。除。く。一。呼。介。と。肚。裏。に。分。別。既。決。け。り。潜。寄。身。を。起。し。柱。を。掛。る。草。鞋。を。取。卸。穿。締。て。又。美。麿。を。九。尺。の。短。鎗。の。を。宜。に。を。擇。取。て。小。篠。の。両。口。由。も。現。驗。を。早。に。劍。刀。身。杜。衣。と。縁。頼。より。出。て。也。と。一。反。あ。り。不。と。竹。藪。を。躰。て。衆。賊。と。這。果。俟。々。も。介。程。小。酒。頭。二。の。鎗。短。衣。手。甲。脚。曹。鉄。打。る。願。卷。の。脩。刀。と。跨。て。右。も。短。鎗。を。扱。も。器械。合。する。十四。五。百。の。支。黨。と。後。小。後。先。

あ。の。せ。い。火。急。の。隊。配。り。大。家。急。げ。と。逸。足。出。し。と。走。る。跡。よ。る。杜。介。も。鎗。引。握。つ。隊。を。紛。れ。共。侶。を。走。り。と。折。り。五。月。の。天。を。驟。雲。曇。月。と。隠。し。朦。朧。と。形。隨。酒。頭。二。も。自。餘。の。賊。も。音。の。杜。介。と。認。む。と。只。是。火。家。の。一。人。と。思。へ。此。も。疑。ひ。を。な。す。り。け。り。恣。而。童。子。篠。子。酒。頭。二。石。龜。屋。次。園。太。の。門。頭。を。推。寄。来。つ。門。の。戸。烈。く。敲。か。く。主人。次。園。太。快。か。よ。這。里。不。宿。せ。他。郷。の。旅。人。大。田。小。文。吾。不。然。也。復。雙。の。為。來。る。の。命。惜。く。小。文。吾。は。索。を。被。て。推。せ。異。議。及。び。園。宅。の。奴。們。一。人。も。漏。さ。ず。研。盡。す。這。里。用。意。と。諸。声。立。く。勢。以。猛。呼。つ。り。間。近。く。臥。る。奴。婢。輩。の。駭。覺。つ。吐。嗟。と。る。怕。れ。て。答。る。の。母。も。登。時。主人。次。園。太。も。覺。て。奥。より。走。り。來。て。且。戸。節。の。間。より。と。來。つ。る。の。の。現。る。面。魂。皆。猛。悪。者。通。て。十。七。名。短。鎗。竹。槍。格。刀。と。も。少。く。食。り。異。形。の。打。扮。是。緑。林。錦。幟。の。儀。多。ら。ん。と。ん。て。け。れ。原。來。那。假。替。女。の。同。類。多。の。多。知。り。襲。來。つ。る。疑。ひ。を。俺。の。も。れ。大。田。大。人の。病。眼。敵。と。争。何。せん。背。門。も。落。さ。ん。と。尋。思。と。つ。音。も。せ。ん。竊。の。踵。を。旋。と。犬。田。が。



小文吉

庄介

八犬傳八陣卷二

十八

大塚定吉



賊隊を紛れて庄介衆賊を殺戮す

庄介

八犬傳八陣卷二

大塚定吉

やどをむ。臥房に赴けり。然れば四隣の里人の共々驚き見るもあきと。賊徒の身勢は害怕れて焦る折
 あり一人として援あるものありけり。既而て外面の酒頭二頻り焦燥して焦るを喚ぶ。心もせ
 り。逃げたる飲寝惚く飲戸を打破て稠々たる。緩一と罵る。声共侶は一個の支黨准
 備の堀籠と抵抗して門の戸塵粉ふ打推して走入んとする程。必ひひるる隊より天川莊介
 頭れ出て大喝一声。閃を鎗の刃火の地上の電光瞬間の賊の腋下を突伏せて。裡面不知
 なる声高き大田も主人も驚く。大川莊介あり。面亭の賊は俺威殺せん。背門は用心せよ
 か。と両三番喚りて。駭噪く小嘯囉。又面三名突仆も勢ひ死猛虎を駈て群羊を屠る。小
 似る。向ふま前を武勇の刺姚克くもあられ。賊徒は怖れて辟易する。あれととなり。小敷
 る。ののきまらける。必ひひるる光景。酒頭二も亦驚き。怒る声も。立て。原来甲夜の
 逆旅武人奴の同謀者。是ありける。不意を敷く。故を聊勝。小乗ら。と。も。官存れ
 知れる。孤客の鎗頭。い。と。あ。あ。快推包。と。敷。留。と。罵。將。大。れ。支。黨。は。又。莊。介。と

敷。んと。を。半。分。の。裡。面。に。稠。々。と。小。文。吾。の。次。圍。太。と。俱。ま。り。ち。振。り。て。先。進。て。近。く。賊。を。破
 麻。非。け。難。休。せ。と。逃。る。透。き。趕。立。々。々。門。頭。を。と。戦。う。る。の。向。ま。莊。介。の。酒。頭。二。と。鎗。と。闘
 きて。一。上。一。下。と。術。を。盡。す。大。士。の。武。勇。小。草。賊。の。當。り。も。あ。られ。酒。頭。二。竟。小。腕。を。怯。む。と
 ぬ。る。莊。介。の。鎗。と。勝。反。揚。て。オ。ツ。と。嘯。目。光。を。刃。火。の。牙。酒。頭。二。の。吭。と。刺。串。れ。仰。反
 仆。せ。死。で。け。残。る。賊。徒。は。立。足。も。く。逃。る。と。小。文。吾。次。圍。太。們。又。莊。介。も。共。侶。は。這。首。小。趕。話。那
 首。小。敷。留。目。取。も。烈。く。攻。め。け。れ。賊。の。屍。は。算。と。糸。と。太。く。多。く。敷。き。れ。る。中。に。辛。く。と
 脱。れ。て。廢。毀。院。多。徳。宅。走。か。り。小。嘯。囉。へ。一。兩。名。不。過。け。り。の。登。時。大。田。小。文。吾。の。莊。介。の。声。を
 かけ。絶。て。久。や。大。川。生。什。麼。い。ふ。と。俺。危。難。を。知。り。援。あり。け。り。只。是。不。勝。の。歎。び。る。た。と
 へ。又。莊。介。も。い。そ。く。走。り。近。つ。て。俺。が。來。歴。一。朝。小。説。書。と。い。ふ。と。和。殿。の。頃。日。風。眼。を。さ。る
 三。自。由。多。う。ぬ。れ。無。算。電。で。在。る。と。夢。い。ち。も。似。せ。い。と。め。で。て。と。あ。れ。て。小。文。吾。の。れ。が。と。小。生。は。け。は。ほ
 へ。も。酷。く。目。と。病。煩。ひ。て。茶。餌。の。效。も。な。り。し。と。な。り。心。つ。く。と。甲。夜。も。秘。藏。の。玉。を。取。ぬ。

念く病眼を指ると半响して目翳退れ一昔か七明る。島夜小燈燭を浴る如く。
 其いま主人も報る違のあざりし夜盗大勢推鬼来つと夢を戻起して主人と俱小草
 賊們を聊討捕ひては夜合の間は次園太もあはれ取合して却其小名告する。其は飲ひ飲
 演で又いさう。宜小由影の大敵也。衆賊の夜は準備はも加梅かん客人へを病て皆
 目さえぬわいのいもせんを。必死の覚期でひひ。豈あはれ大田の大人の眼病夜中小痊
 可く進退自由のさうさう。友連の折も。此地は旅宿あはれ。其も賊と滅しぬ。
 恰と飲ひ酔ふふのいもせん。其を在介あはれ。その口誦ひ姑く措てる海緊要の一談わ
 其の料も甲夜小焦々の山路る。荒廢堂は憩ひ折那船虫より賊婦の梁の吊
 られも人半々の訝しあはれ。その故を語ね。小那奴巧小欺して箇様々とのいもその細を解
 卸してさう。随小他が宿所へ送遣してさう。宿所の故は孤屋を廢院の跡に似る。且船虫が
 兄と詭りし賊の頭深さ。酒顛と喚做さる。其初これを知らず。那里小止宿し。

那當の密談。其小洩す。疑心さう。氷解く那船虫の當初武藏を阿佐
 谷の奸賊並四郎が妻より。并子件の並四郎大甲生小敷おれる。這回又船虫を假敷首
 女打扮して怨と復えとせ。漏さし。懐る靈玉の加護るんか。憊而賊首
 酒顛二の這首へ夜敷を推寄。妻船虫新舊両度の怨と一時復えを。謀る。既
 急登時其もさう。不知案内る。這所也。賊と敷を欲せん。他們と俱小千谷
 到る石龜屋の門頭也。猛可起。拉去賊首と殺し。日かかべ。と尋思。其箇様々小
 計と俱小あはれ。以て酒顛二。又支當黨も討捕。小賊婦船虫の媪内。
 一個の賊と俱小留守と。那首あはれ。方純酒顛二。が敷おれ。と必逃去るべ。那
 奴の前度度。草賊と夫婦小。毒悪竊盜する。大田生と害せん。とさつ。
 前後兩度。あはれ。憊れ。天も人も借る罪人多。とさつ。蛇と殺し。頭を推。
 患を送。小似。這里より賊巢へ。才半里許る。誘ひ。天も明る。由。船虫を屠る。

べ。や快くとのを。と。の崖略と報へ。次國太のす。も且驚た且感下と頻る耳。傾
 け。就中小文吾の听夕毎々感嘆と。通微妙大川生敵と知。己と知。内を進退を度ふ
 當らぬ。是兵法の貴む所計略感。さるるあ。い。如く船虫の俺身の仇。このさ。あ。ん
 大辟不赦の罪人。之。誓。て那奴と殺去。只御導と憑む。の。よ。あ。辨。い。ま。記。ら。ん。又。那土
 丈二卿。六師。匠。り。ける。石亀屋。強盗。入り。ぬ。と。傳。て。同志。の。社。校。十。名。を。ら。り。と。敵。起。し
 馳催して。大棒と突立。々々。天の明る。比。来。ま。け。れ。次國太。小文吾。と。俱。ふ。土。丈。二。卿。を。勞。ふ。て
 縛の趣。説。示。し。和。郎。們。の。過。半。を。在。る。比。屋。の。人。々。と。共。侶。ふ。り。と。御。長。小。報。指。揮。し
 儘。て。衆。賊。の。尸。骸。と。も。か。も。せ。し。俺。の。這。方。さ。る。連。と。賊。の。隱。宅。へ。趕。敷。し。と。その。根。と。鋤
 ん。と。あ。ふ。の。又。さ。る。る。よ。う。と。諭。と。裡。面。に。走。り。入。り。逃。躲。れ。る。女。房。鳴。呼。善。井。の。女。婢。們。を
 喚。出。し。て。又。示。ま。さ。上。の。如。く。の。配。送。も。さ。り。け。り。介。間。小。文。吾。の。社。校。を。先。小。立。し。賊。巢。へ。を
 ぐ。み。次。國。太。の。卿。と。社。校。五。六。名。と。わ。て。會。後。れ。と。二。天。寺。跡。に。跟。て。を。走。り。け。り。有。徳。一。程。の

廢毀。焼。る。酒。顛。二。隱。宅。の。淵。六。穴。八。と。喚。做。す。兩。個。の。小。嚙。囉。逃。か。り。來。て。酒。顛。二。百
 その。他。の。もの。大。川。大。田。兩。勇。士。亦。數。果。ま。れ。縛。の。趣。箇。様。と。報。へ。船。虫。の。媪。内。も
 只。眉。子。火。の。焦。る。と。駭。噪。だ。て。立。て。居。る。計。の。所。所。と。知。れ。れ。走。る。不。如。と
 尋。思。て。身。装。へ。臂。近。る。金。錢。衣。裳。と。腰。に。着。着。馳。走。り。共。侶。小。立。ま。さ。し。け。る
 折。船。虫。の。淵。六。と。穴。八。と。對。ひ。俺。丈。夫。の。運。竭。て。火。家。の。人。々。と。共。侶。果。敢。て。敵。を
 追。ひ。て。數。け。ば。と。も。今。の。並。り。願。ふ。大。田。と。大。川。奴。が。里。人。を。馳。催。し。と。び。つ。ら。あ。へ。槍。を。せ
 來。つ。る。然。然。と。大。石。亀。屋。次。國。太。が。行。貝。殿。別。館。へ。訴。て。馳。走。り。捕。ま。高。ら。る。べ。居。は。り
 細。と。受。ん。と。媪。内。を。わ。て。投。ま。さ。る。落。て。ゆ。ん。と。あ。か。汝。達。も。宜。に。東。西。を。馳。走。り。死。限。り
 擔。造。り。て。家。小。火。を。放。煙。水。紛。れ。何。処。へ。も。影。と。躲。れ。跡。を。憑。む。と。ら。ひ。捨。て。立。ま。ふ。く
 あ。つ。慌。し。く。東。と。投。り。出。て。ゆ。後。鳥。邊。後。媪。内。の。大。石。を。形。祇。裏。と。楚。と。馳。走。り。種。子
 嶋。の。鳥。銃。と。推。り。て。趕。め。の。あ。ふ。敵。を。留。め。て。眼。と。配。る。不。敵。の。退。際。今。よ。り。後。の。胸。算

用もあつた合はぬは、算盤絞と頼り、二轉變早急の一時退散五倍死二引く
残る二人連樂を去て苦の世界九死如四苦六瀾六と穴八算小告別明く天を不樂
は、樹の下層の路も、死路と討めていそげ、姑く、彼此の茂林を離る鳥の声山
自鼻遠くあつ、引東の暗れ、微雨、朝日向、小文吾と共、侶小賊、巢、所、之、
二三町あつ、小舟、一、時、小文吾と又、之、那、媪、内、多、奴、の、酒、顛、を、預、け、る、鳥、銃、を、持
る、ら、ち、入、る、と、た、心、く、管、面、小、立、入、り、と、い、ふ、小、文、吾、あ、ら、う、い、て、い、そ、去、向、忽、然、と、自、焼、の
煙、立、并、り、と、尾、刺、々、々、と、立、音、を、小、天、ま、を、信、と、て、原、来、を、船、虫、們、が、自、焼、と、逃、去
る、ふ、を、あ、ら、ち、逃、と、何、処、へ、脱、え、と、て、飛、が、似、く、小、猛、火、の、邊、へ、喘、ぐ、て、走、着、た、ら、の、登、時、瀾、六
と、穴、八、を、取、る、に、東、西、を、皆、擔、造、り、と、拾、半、の、隱、宅、火、と、放、ち、却、退、地、で、庭、不、措、る、件、の
重、荷、を、擔、い、杭、と、せ、一、程、小、初、ハ、折、れ、擔、索、も、断、て、東、西、皆、滾、出、る、ら、火、粉、忽、地、燃
徒、を、燒、失、失、く、え、ろ、二、賊、吐、嗟、と、狼、狽、謀、引、出、さ、る、と、あ、折、天、士、走、の、迫、つ、た、那、為

体小此百猶豫、草賊等と喚、被る声、驚、瀾、六、穴、八、外、を、さ、る、後、は、既、に、猛、火、
遮、り、て、一、步、も、退、く、と、は、る、に、前、に、天、士、立、塞、り、と、脱、る、ら、あ、ら、れ、此、彼、一、跪、死、
許、さ、る、と、ら、ち、倍、語、る、と、天、士、馳、て、蹴、倒、し、解、す、擔、索、と、檢、合、し、た、ら、數、珠、數、不、
細、め、且、風、波、の、幸、り、と、退、け、船、虫、と、媪、内、們、が、往、方、と、繫、り、く、責、問、小、賊、各、て、船、虫、の、媪
内、と、は、ち、早、く、東、の、方、へ、落、ち、る、小、可、們、の、又、箇、様、々、と、跡、小、送、り、一、緯、の、趣、あ、ら、う、隨、小
首、伏、き、天、士、れ、を、ち、ち、て、そ、の、朽、惜、を、る、に、他、賊、の、左、右、も、あ、れ、那、船、虫、を、走、る、音、へ、能、
殺、と、胆、を、採、り、憾、何、を、異、を、死、遠、く、い、ち、り、趕、せ、鬼、と、俱、に、敦、團、死、罵、折、々、と、次
困、太、の、卿、云、と、自、餘、の、社、校、們、を、從、て、中、小、其、介、の、弟、と、這、里、ま、り、一、個、の、社、校、不、索、と、執、と、又、瀾、六、と
あ、て、部、と、ま、り、趕、せ、鬼、け、り、そ、中、小、其、介、の、弟、と、這、里、ま、り、一、個、の、社、校、不、索、と、執、と、又、瀾、六、と
穴、八、を、責、て、酒、顛、二、船、虫、們、が、來、歷、素、生、と、向、か、二、賊、の、隠、ま、と、と、以、代、傳、せ、る、趣、を、送、
る、く、招、道、を、る、は、目、又、小、と、と、船、虫、が、酒、顛、二、相、計、と、磯、九、郎、と、殺、早、ら、も、又、船、虫、が、信

濃路より流落多々酒頭三と夫婦より一のゆへに温内他御老。主不傷け盤纏三奪りて
亡命するの事よりも總て具不願れけり。介程小文吾次團太。卿三各々里の社夜二両名程へて
たて三方に立別れ船虫門へ趕きける。小権路熊徑岐道。山野の草木の隈の三乳の何地
由たけん趕もゆ着きまも。早飯もたうべれ。大家餓てかろ奉りけり。當下莊介の又酒六門が招道
あり。御高酒頭二船虫が計を磯九郎と殺せり。ゆ井の媪内が来麻まで初て知れ縁由。小文
吾次團太の報へ。大家の駭嘆とて之送恨不堪きける。就中次團太の今船虫を獲せと
いへる磯九郎の仇發覺てた入。身酒頭二の莊介を殺せれ。是切りめり。又改めて莊介の
その飲べと漁り。徳而あるべや。あられ小文吾次團太の生物の二賊酒六と八と。卿三門小
牽一々午の貝吹く比及。小千谷の宿所へ還りけり。柳件の酒六と八と。年尚二十二三あるべし。酒
六も身長高く。面色白く。小文吾次似たり。所あり。又穴八も色薄黒くて。身長高きれども
筋骨の逞し。せらるる所何と。莊介に似たりけり。夫燕石の玉に似たり。初半牛の子に羊に似たり。

は物と相似てその性質異。知陽虎の孔子に似たり。又山猿の顔延之と何尚之に似たり。只
是外面のまゝして内心何と。同らんが。故に但貌とて人と取れ。聖といふも必謬。那酒六
と穴八の犬田大川より似るも亦比て知るべし。間話休題再説。次團太も小文吾次。莊介も相
似し。小千谷の宿所から。先二天士。饑と羨め。その曾侍大。おれ。并に生
丈二。卿三の社校の。この曉より。這里より。那首を赴ける。幾名も酒と飲。飯と食。留
守の首尾。向さ。然。士文二。門の曉。く。四隣の人々と共。侶。より。御長。報。知。く。時。程
さ。件。の。始。末。領。主。の。陣。屋。を。告。訴。せ。り。有。司。速。に。到。来。し。て。戸。散。の。実。檢。査。訖。り。賊。頭
梁。童。子。酒。頭。二。の。支。遣。小。至。る。も。鳥。羽。自。定。し。と。宣。振。て。酒。頭。末。と。糾。問。せ。り。衆。賊。を
殺。す。武。勇。の。旅。人。犬。川。莊。介。犬。田。小。文。吾。次。等。も。歸。來。す。宜。く。御。沙。汰。ある。言。は。し。票。出。よ。と。見。下。知
あり。いと。安。ら。る。事。果。て。方。纒。還。ら。せ。り。と。報。り。小。次。團。太。終。て。衆。人。を。勞。ひ。又。二。天。士。中。を
件。の。よ。と。徳。々。と。考。え。知。り。て。み。つ。く。御。長。の。宿。所。に。赴。け。二。天。士。か。る。束。縛。る。よ。と。又。二。天。士。賊。頭

隠宅之瀨六穴八と云二小賊と生拘りて一趣之箇様と云演述して這美も許りて一と
 憑てかき不比屋を市人許立ちりて公支を勞た。欽び演る。煩雜のさうもあつりけり。
 余間小文吾の病後の浴湯剃梳して社介と俱に安房ふ。會話の數々ある。馬加大記常武が妬心奸計あり。次の年は五月までを其身と石濱に
 夏之趣。又並四郎船虫の馬加大記常武が妬心奸計あり。次の年は五月までを其身と石濱に
 城内子禁錮られる事の顛末并に大阪毛野のるを復讐言の智略勇敢を折毛野の資力
 として石濱と逃去り。依介の父文五兵衛送言の。又親兵衛のるを社介も照文も
 伊豆の孤嶋を光陰と送りてさう浪華を便船して國地來ると云。有馬の湯治這地の
 遊歴二十村の閑牛折景たる牛と牝の。小角九が醉狂社死の身は眼病靈王に
 妙心奇特のるをも次第茶系に説示。社介耳を傾け頻に感嘆の声を絶。果て
 又その身に去来荒芽山を離散の折大山道節と共侶の大塚大飼の往方と云。

四国小渡り九州小赴。京樞五畿内と巡りて甲斐州小到り。折石木の栞月と道
 場也。大法師名の。あひ登崎照文小面會ある。をられり。始と社介の去歲に
 春を又又天士と素糸と。獨栞月院と立。武藏小赴。下總と偏歴。行徳に
 里人小大思の。東の。文五兵衛の安房州也。身まら。常陸下野陸奥出
 羽。長旅宿。三稔の光陰と過。息苦の顛末。乃若這地。來つれ。る。四全
 犬飼大。江。の。遇。去。甲。非。之。石。木。に。立。か。て。又。道。節。と。替。え。ん。思。ひ。に。終。り。ま。暗。譚。時。に。行。

是。過。り。り。と。思。ひ。生。か。す。小。説。也。痛。す。れ。と。西。郎。立。目。立。目。が。忠。死。我。没。我。單。節。の。薄。命
 存。亡。又。親。兵。衛。の。恙。も。有。や。や。と。思。ひ。子。慰。め。難。て。共。侶。の。嘆。息。の。外。き。ら。け。り。姑。く。社
 介。又。小。文。吾。の。對。し。送。小。苦。行。の。甲。斐。文。と。和。殿。小。球。會。一。か。俱。る。石。木。か。つ。由。死。て。
 大山小救。又。素。糸。と。大。塚。們。の。天。士。と。素。糸。と。と。小。文。吾。領。て。その。議。定。不。あ。る。所。へ。然
 る。老。由。の。年。里。田。川。の。頭。を。果。敢。き。別。れ。大。阪。毛。野。も。亦。俺。們。と。同。因。同。果。の。過。世。あ。ら。後

料りがらる。那折の縛急な老権。これいと。又相成る玉も持ると縛向の違わりの
 ほど。まひ今ゆ。遂に懐か。れ。備後々々。縁盡き。再會を俟つ。と。其は。閑談。夏。日
 ろ。短。景。横。日。影。下。晡。ま。り。の。け。り。浩。処。次。國。太。連。く。走。り。あ。つ。二。大。士。あ。り。ち
 對。ひ。て。目。今。片。目。る。御。別。館。より。執。事。の。老。臣。稻。戸。津。衛。由。元。大。人。の。使。者。こ。七。秋。野。井。三。郎
 と。名。生。ま。る。一。個。の。若。黨。雜。兵。十。名。あ。り。後。で。轎。子。二。挺。り。巾。巾。々。客。人。遣。の。迎。へ。て。光。臨。の
 御。長。も。告。知。さ。れ。て。快。々。准。備。さ。ま。り。と。二。大。士。の。あ。ま。り。又。西。安。の。小。お。を。権
 門。初。より。異。姓。の。兄。弟。さ。り。と。相。別。れ。り。往。方。を。知。ら。ぬ。旨。得。兩。玉。名。あ。り。尋。お。か。り。欲
 き。折。之。何。の。未。の。暇。の。と。領。主。の。執。事。を。對。面。せ。り。互。々。推。辞。あ。り。又。一。と。辭。の。言。ひ。に。件。の
 秋。野。井。三。郎。の。御。長。の。案。内。に。さ。り。と。あ。り。ま。し。た。二。大。士。已。ま。り。去。り。て。秋。野。井。三。郎
 面。を。登。時。秋。野。井。三。郎。の。執。事。由。元。の。使。者。と。迎。へ。ら。れ。口。狀。と。い。ふ。禮。物。を。演。る。の。二。大。士
 初。の。ご。辭。ひ。て。美。申。引。き。り。三。郎。聽。を。推。返。し。と。の。ま。へ。右。も。あ。れ。ぬ。由。元。の。私。の。使

秋。野。井。三。郎。の。御。長。の。案。内。に。さ。り。と。あ。り。ま。し。た。二。大。士。已。ま。り。去。り。て。秋。野。井。三。郎
 面。を。登。時。秋。野。井。三。郎。の。執。事。由。元。の。使。者。と。迎。へ。ら。れ。口。狀。と。い。ふ。禮。物。を。演。る。の。二。大。士
 初。の。ご。辭。ひ。て。美。申。引。き。り。三。郎。聽。を。推。返。し。と。の。ま。へ。右。も。あ。れ。ぬ。由。元。の。私。の。使



我社井三

小文吾

虎見の別館
千
二大士捕
旋
らくやまの落

いさよ津のり

狂介



獲^{とら}ふ^の跡^{あと}より^い稻^い戸^と殿^の宿^{しゆく}末^{すえ}と^え雜^ま兵^{へい}四^よ五^ご名^な送^お置^きて^を其^{その}身^みに^か輜^そ子^しに^あ後^{のち}不^な跟^つ々^つか^らず
 や^り程^{ほど}不^な途^とよ^しと^日日^ひ暮^{くれ}なる^に徳^{とく}而^{して}在^あり^し小^こ文^{ぶん}吾^{われ}の^片貝^{がら}不^な到^らり^し時^{とき}那^な別^{べつ}館^{くわん}の^門前^{まへ}を^輜子^しを^た立^たて
 引^ひき^つて^お老^{らう}臣^{しん}稻^い戸^と津^つ衛^ゑの^宿所^{しゆく}に^お赴^きけ^り津^つ衛^ゑの^大家^{だいけ}は^家宰^{さい}の^威權^{けん}あ^らむ^れの^めり^たる^に宅^{たく}
 地^ちの^廣さ^を之^を後^{のち}類^{るい}も^甚く^は老^{らう}僕^{ぼく}若^{じやく}黨^{たう}二^に四^に名^なも^燭と^兼て^二天^{てん}士^しと^云関^{かん}不^な出^で迎^{むか}へ^るに^依書^{しよ}
 院^{いん}案^{あん}内^{ない}と^まけ^り看^{けん}茶^{ちや}の^礼記^{れいき}時^{とき}稻^い戸^と津^つ衛^ゑ由^ゆ充^{ちゆう}の^荻野^{ひの}井^い三^{さん}郎^{らう}後^{のち}て^出て^二天^{てん}士^しと^對面^{めん}
 志^しを^功を^褒褒^{ほう}め^武武^ぶ勇^{ゆう}と^稱且^{かつ}内^{ない}命^{めい}せ^しと^演て^不盡^{けん}と^薦め^る主^{しゆ}客^{かく}の^辭讓^{じやう}言^{げん}果^{くわ}津^つ衛^ゑの^當言^{たうげん}
 献^{けん}の^為ま^とそ^稍を^抗る^土土^と器^きと^勿地^ち破^はと^擲て^寄れ^兵兵^{へい}們^{たむらひ}と^吸り^こる^声の^共又^{また}廊^{らう}下^かる^幕幕^{まくら}は^陰
 より^頭頭^{あたま}を^捕り^方方^{かた}三^{さん}十^{じゆ}名^な走^{そう}蒐^{しゆ}り^後後^{のち}より^組組^{ぐみ}を^とり^井井^い介^{けい}小^こ文^{ぶん}吾^{われ}の^何何^{なに}を^敵敵^{てき}馬^ばを^擲
 抗^かへ^投退^{たい}々^つ々^つ雲^{うん}々^つ々^つ時^{とき}俱^くに^挑を^かも^大大^{だい}勢^{せい}多^たれ^のは^もせ^を跡^{あと}を^折折^{せつ}思^しを^押て^索索^{さく}を^掛掛^か
 け^り畢^ひ竟^{けい}津^つ衛^ゑの^理不^な盡^{けん}二^二天^{てん}士^しと^細細^{さい}ゆる^事事^じ情^{じやう}の^甚甚^{じん}廢^{へい}を^多多^たの^卷卷^{まき}解^{かい}分^{ぶん}る^を聽^き孫^{そん}か^り

里見八代傳第八輯卷之二終

